

受発注者の業務負担の軽減について (段階的選抜方式の活用)

課題認識

工種・地域等により、常態的に参加企業が多数となる入札があり、受発注者の業務負担が大きい状況

受発注者の負担軽減の策となる段階的選抜方式の活用にあたり、これまで受発注者から次のような課題が指摘されている

- 選定者が固定される
- 手続き期間が延びる
- 不調・不落リスクが高まる
- 参加者数によっては、段階選抜による負担軽減効果より1次審査の事務負担が相対的に大きくなる

■指摘されている課題の状況を検証し、段階的選抜方式の改善策を検討

(検討の方向性)

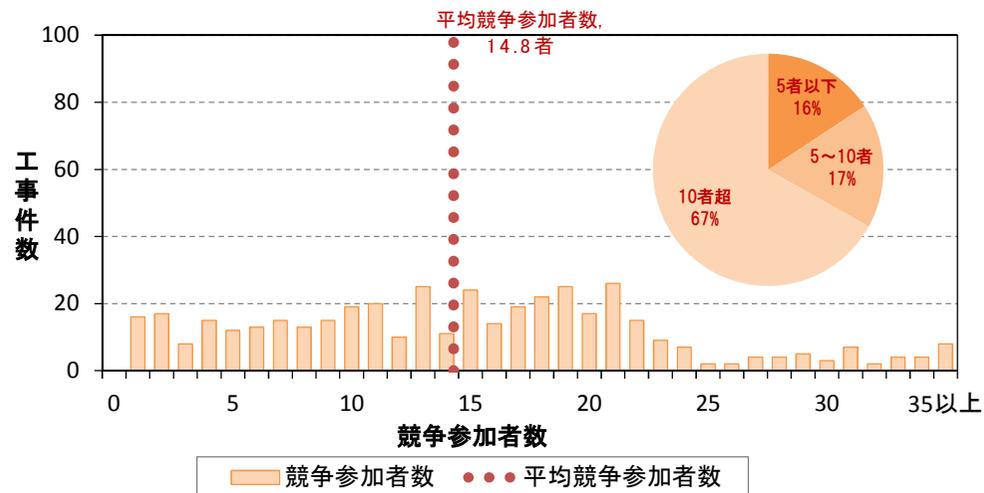
- ・ 指摘された課題に顕著な問題がなければ、工種により段階的選抜方式を基本とすることとしてはどうか。
- ・ 1次選抜時の評価と受注者の状況を踏まえ、工事内容等に応じて更に絞り込み者数を限定してもよいのではないか。

①競争参加状況

技術提案評価型S型の競争参加者数

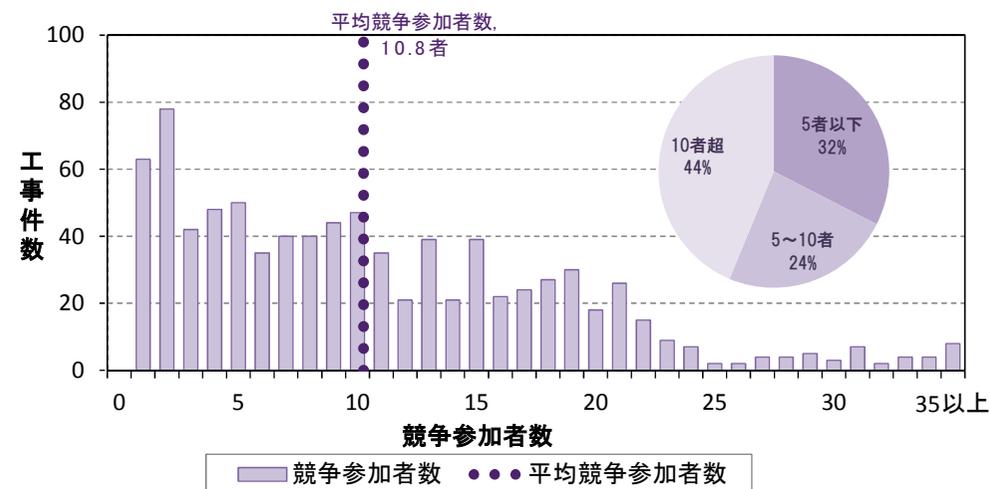
WTO案件

(432件)



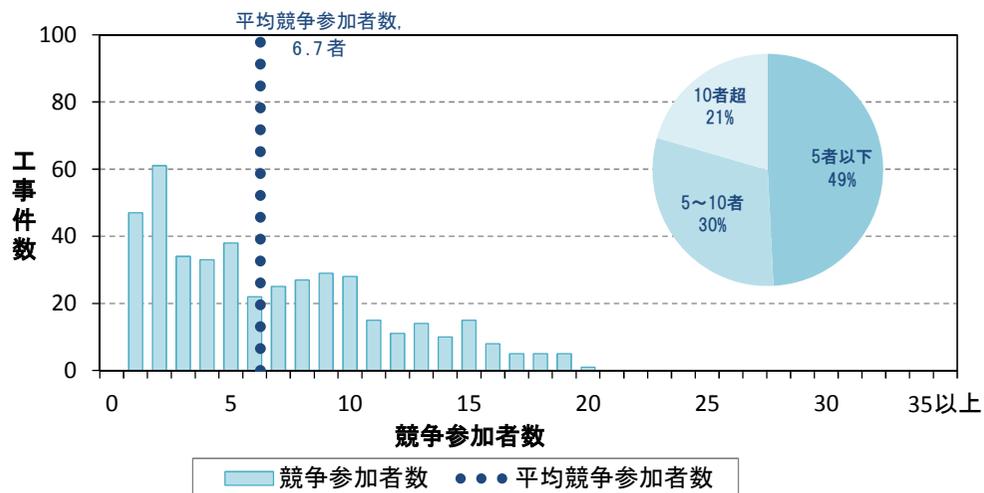
WTO案件+非WTO案件

(865件)



非WTO案件

(433件)



注1) 平成25~26年度に10地方整備局等が契約した技術提案評価型S型を対象(港湾・空港関係工事を除く)。

注2) 競争参加者数は、辞退・無効の参加者を含む者数を整理。

①競争参加状況

技術提案評価型S型の競争参加者数

●工種別競争参加者数

	WTO案件		非WTO案件		WTO+非WTO案件	
	平均競争参加者数	5者以上参加工事割合 (10者以上参加工事割合)	平均競争参加者数	5者以上参加工事割合 (10者以上参加工事割合)	平均競争参加者数	5者以上参加工事割合 (10者以上参加工事割合)
一般土木	15.1 者	82.7% (65.8%)	7.1 者	72.7% (25.6%)	11.6 者	78.3% (48.1%)
As舗装	6.0 者	100.0% (0.0%)	8.8 者	100.0% (25.0%)	8.2 者	100.0% (20.0%)
鋼橋上部	17.4 者	99.0% (94.9%)	12.5 者	96.4% (69.6%)	15.6 者	98.1% (85.8%)
造園	-	-	11.5 者	100.0% (100.0%)	11.5 者	100.0% (100.0%)
建築	8.8 者	78.6% (35.7%)	2.5 者	25.0% (0.0%)	7.4 者	66.7% (27.8%)
電気設備	7.3 者	75.0% (25.0%)	3.5 者	33.3% (0.0%)	5.0 者	50.0% (10.0%)
暖冷房衛生設備	11.3 者	100.0% (50.0%)	8.4 者	57.1% (28.6%)	9.5 者	72.7% (36.4%)
Co舗装	11.0 者	100.0% (100.0%)	4.0 者	0.0% (0.0%)	8.7 者	66.7% (66.7%)
PC	15.5 者	98.3% (93.3%)	9.4 者	96.4% (49.1%)	12.5 者	97.4% (72.2%)
法面処理	4.0 者	0.0% (0.0%)	1.0 者	0.0% (0.0%)	2.0 者	0.0% (0.0%)
維持修繕	-	-	2.3 者	5.6% (0.0%)	2.3 者	5.6% (0.0%)
浚渫	7.0 者	100.0% (0.0%)	-	-	7.0 者	100.0% (0.0%)
機械設備	4.0 者	43.8% (0.0%)	1.4 者	0.0% (0.0%)	3.4 者	33.3% (0.0%)
通信設備	5.0 者	50.0% (0.0%)	3.2 者	33.3% (0.0%)	3.6 者	37.5% (0.0%)
受変電設備	-	-	10.5 者	100.0% (50.0%)	10.5 者	100.0% (50.0%)

※橙色セル：技術提案評価型S型による発注件数の多い上位3工種

注1) 平成25～26年度に10地方整備局等が契約した技術提案評価型S型を対象(港湾・空港関係工事を除く)。

注2) 競争参加者数は、辞退・無効の参加者を含む者数を整理。

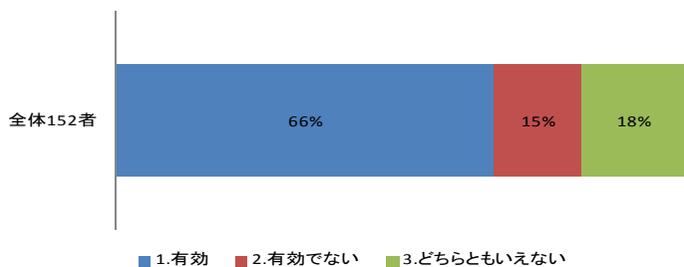
段階選抜方式の効果検証(競争参加者)

平成24年2月28日
総合評価方式の活用・改善等による
品質確保に関する懇談会

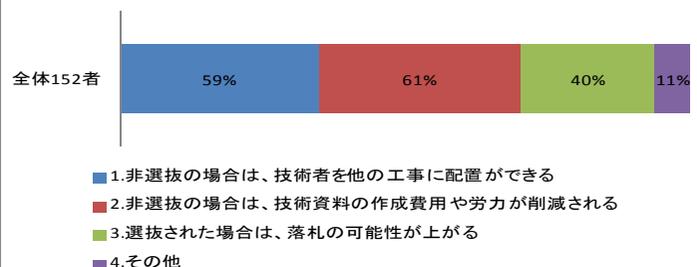
【競争参加者】回答者 14工事、152者(重複あり)

- ・延べ152の回答者のうち、段階選抜方式は「技術提案書作成の負担軽減に有効」を選択したのが66%(101者)、「有効でない」が15%(23者)、「どちらとも言えない」が18%(28者)となっている。
- ・良かった点としては、「技術者を他の工事に配置できる」が59%(90者)、「技術資料の作成費用や労力が削減される」が61%(92者)、「落札の可能性が上がる」が40%(61者)となった。
- ・改善すべき点としては「1次選抜段階の評価項目」が50%(76者)で最も多く、以下、「手続き期間の短縮」が36%(55者)、「選抜者数」が25%(38者)となっている。
- ・非選抜時の技術提案の負担軽減や、配置予定技術者の拘束解除等の観点から有効であるとの意見が多い一方で、課題として選抜者の固定化回避、評価項目、手続き期間の短縮や効率化などが指摘されている。

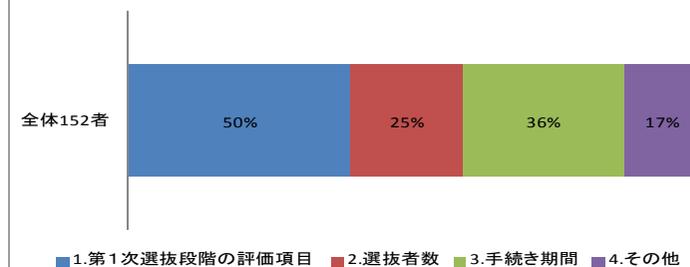
技術提案作成の負担軽減に有効か



良かった点(複数回答)



改善すべき内容(複数回答)



【主な自由意見】

- ・一次審査において、企業の施工実績、配置予定技術者の能力で選抜を行うと、選抜されるメンバーの固定化が懸念されます。
- ・段階選抜方式については、WTO等の大型物件を中心に適用して行くべきではないかと考えます。
- ・最も時間を要する技術提案作成の軽減を図ること、並びに工事の遂行にとって最も重要な品質確保をより良い形で達成するため、施工実績・工事評価を評価項目とする段階選抜方式が採用されることを希望いたします。
- ・第1段階までは、入札ごとに変動しない評価項目を事前登録することにより、発注工事ごとに作成及び審査していた業務を軽減化できると考えます。
- ・競争参加資格確認通知の決定日を1週間程度に短縮して頂ければ、技術者を他の工事に有効に配置することが出来ます。
- ・一次審査結果における評価点の内訳については、一次審査結果後に公表いただきますようお願いいたします。
- ・第2段階の提出資料は現在郵送となっておりますが、電子入札システムでの提出を検討願います。

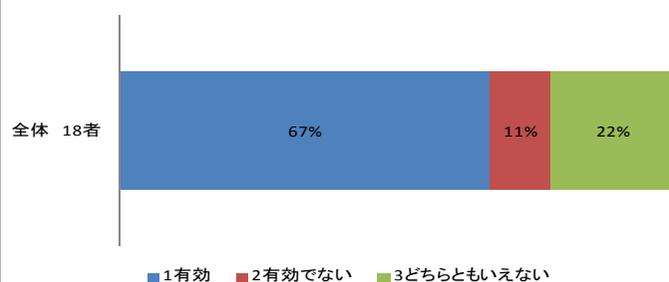
段階選抜方式の効果検証(発注者)

平成24年2月28日
総合評価方式の活用・改善等による
品質確保に関する懇談会

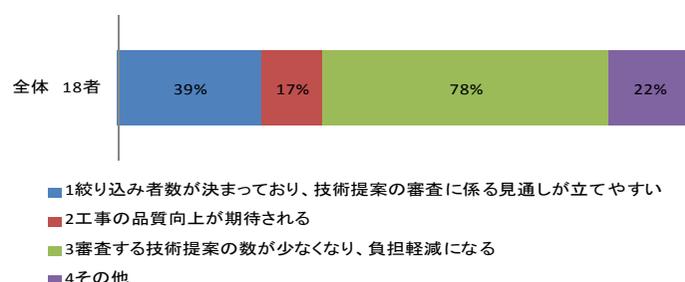
【発注者】回答者 13工事 18者(重複なし)

- ・18の回答者のうち、段階選抜が「事務手続きの負担軽減に有効」を選択したのが67%(12者)、「有効でない」が11%(2者)、「どちらとも言えない」が22%(3者)であった。
- ・良かった点として、「負担軽減」が78%(14者)で最大、「技術提案の審査に係る見通しが立てやすい」が39%(7者)、「工事の品質向上」が17%(3者)である。
- ・改善すべき内容として、「第1次選抜段階の評価項目」が61%(11者)、「選抜者数」が33%(6者)、「手続き期間」が22%(4者)であった。
- ・事務手続きの負担軽減に有効との意見が多い一方、電子入札システムの改良や手続き期間の短縮による更なる事務の効率化に対する意見や、1次選抜結果の公表に係る事務作業量の増大に対する懸念の意見もあった。
- ・また、不調の懸念や、WTOにおける海外企業の取扱や、全国の成績を扱えるデータベースの整備等の課題も指摘された。

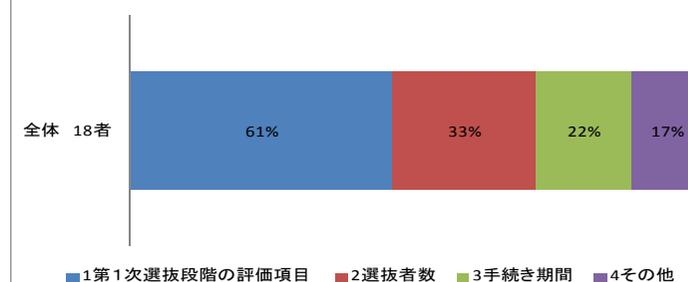
事務手続きの負担軽減に有効か



良かった点(複数選択)



改善すべき内容(複数選択)



【主な自由意見】

- ・絞り込み過ぎると不調となる懸念もあり、10者程度が妥当か。
- ・全国の工事成績データベースの構築が必要。
- ・外国企業の取り扱い方法について検討を行う必要がある。
- ・通常の手続きに比べて審査期間が長くなることから、手続き期間の短縮について検討を行う必要がある。
- ・電子入札システムの改良が必要。
- ・評価結果の公表内容(一次選抜時点の評価と落札決定時点)について全国標準が必要と思われる。
- ・今後、企業の要望等で「一次選抜結果の通知」も、行うようになれば、その事務作業量が増加する恐れがある。
- ・技術提案の評価による選抜方法では双方の負担は減らなかったため、第1段階での評価項目を再検討する必要がある。

段階的選抜方式の導入状況

段階的選抜方式の実施状況

(1) 年度別

件数(平均競争参加者数)		H24年度	H25年度	H26年度	計
施工能力 評価型I型	全体	401件(8.0者)	2,550件(5.6者)	2,105件(5.6者)	5,056件(5.8者)
	段階選抜	15件(9.1者)	—(—)	—(—)	15件(9.1者)
技術提案 評価型S型	全体	70件(8.9者)	451件(10.1者)	414件(11.5者)	935件(10.6者)
	段階選抜	24件(17.3者)	25件(19.2者)	18件(14.4者)	67件(17.2者)
計	全体	471件(8.1者)	3,001件(6.3者)	2,519件(6.6者)	5,991件(6.6者)
	段階選抜	39件(14.2者)	25件(19.2者)	18件(14.4者)	82件(15.7者)

(2) 整備局別 (H24~H26)

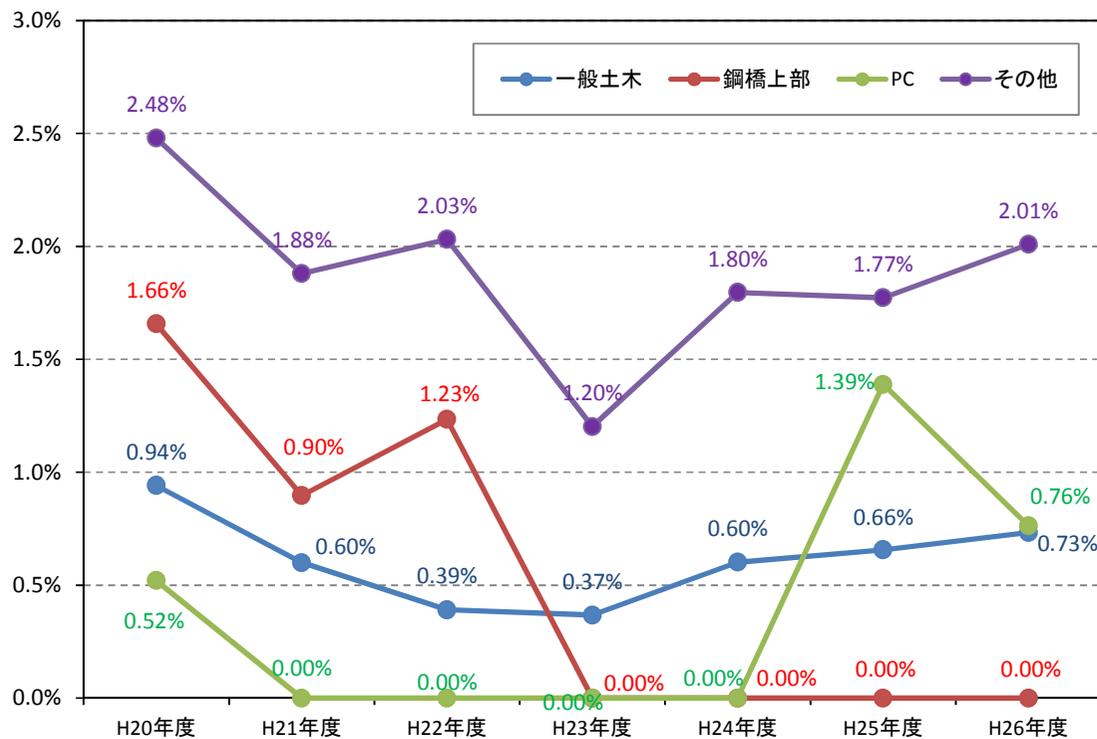
件数(平均競争参加者数)		北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
施工能力 評価型I型	全体	1,024件 (5.9者)	266件 (5.3者)	335件 (5.0者)	711件 (4.2者)	877件 (5.4者)	321件 (6.3者)	827件 (5.8者)	—	442件 (8.3者)	253件 (8.4者)	5,056件 (5.8者)
	段階選抜	14件 (8.9者)	—	—	—	—	—	—	—	1件 (12.0者)	—	15件 (9.1者)
技術提案 評価型S型	全体	20件 (8.3者)	68件 (11.3者)	190件 (12.0者)	30件 (8.3者)	120件 (14.9者)	79件 (15.2者)	116件 (9.1者)	225件 (5.8者)	73件 (12.9者)	14件 (11.6者)	935件 (10.6者)
	段階選抜	7件 (13.6者)	6件 (14.3者)	6件 (18.8者)	10件 (17.9者)	6件 (18.8者)	1件 (32.0者)	7件 (15.6者)	7件 (18.0者)	17件 (17.6者)	—	67件 (17.2者)
計	全体	1,044件 (5.9者)	334件 (6.5者)	525件 (7.6者)	741件 (4.4者)	997件 (6.6者)	400件 (8.0者)	943件 (6.2者)	225件 (5.8者)	515件 (8.9者)	267件 (8.5者)	5,991件 (6.6者)
	段階選抜	21件 (10.5者)	6件 (14.3者)	6件 (18.8者)	10件 (17.9者)	6件 (18.8者)	1件 (32.0者)	7件 (15.6者)	7件 (18.0者)	18件 (17.3者)	—	82件 (15.7者)

注1) 10地方整備局の契約した工事の施工能力評価型I型と技術提案評価型S型を対象(二極化以前の簡易型及び標準型、更に港湾・空港関係工事を除く)。

注2) 競争参加者数は無効・辞退等を含む者数を整理。

不落(予定価格内の応札者がゼロ)の発生状況

● 「一般土木」、「鋼橋上部」、「PC」の3工種は、その他の工種よりも不落の発生率が低い傾向にある。



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
一般土木	0.94%	0.60%	0.39%	0.37%	0.60%	0.66%	0.73%
鋼橋上部	1.66%	0.90%	1.23%	0%	0%	0%	0%
PC	0.52%	0%	0%	0%	0%	1.39%	0.76%
その他	2.48%	1.88%	2.03%	1.20%	1.80%	1.77%	2.01%
アスファルト舗装	1.73%	1.15%	0.24%	0%	0.38%	1.44%	0.51%
造園	0.38%	0.37%	0%	0%	2.01%	0%	0.53%
建築	7.11%	3.96%	7.49%	6.06%	10.31%	9.23%	8.91%
木造建築	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
電気設備	1.64%	3.20%	1.55%	1.21%	3.13%	0.73%	3.95%
暖冷房衛生設備	5.63%	7.08%	5.10%	2.00%	8.33%	3.57%	6.06%
セメ・コン舗装	5.41%	0%	0%	0%	0%	1.79%	3.57%
法面処理	2.10%	2.46%	0.71%	0%	0.84%	0.83%	0%
塗装	0.46%	0.37%	1.22%	0.00%	0.64%	1.05%	1.42%
維持修繕	2.12%	1.61%	1.53%	0.53%	0.98%	0.69%	1.38%
河川しゅんせつ	4.17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
グラウト	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20.00%
杭打	0%	0%	-	-	-	-	-
さく井	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
プレハブ建築	25.00%	-	0%	0%	0%	-	0%
機械設備	2.66%	2.27%	2.27%	2.91%	1.08%	3.35%	2.00%
通信設備	2.56%	2.33%	2.95%	1.80%	1.47%	2.30%	2.01%
受変電設備	0.76%	0.72%	3.06%	2.60%	0.93%	5.00%	7.23%

注1) 8地方整備局の契約工事を対象(港湾・空港関係工事を除く)。

注2) 表内の「-」表記は、当該年度の発注がない工種

選抜者の固定化

選抜者の固定化

トンネル工事

●工事件数：23件、参加企業：68社

鋼橋上部工事

●工事件数：10件、参加企業：50社

		選抜件数																								
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	計
参加件数	1	14	15																							29
	2	4	1	2																						7
	3	1		1																						2
	4			1	1																					2
	5		1																							1
	6	1		2																						3
	7																									
	8			1			1																			2
	9				1	1	1																			3
	10					1																				1
	11																									
	12									1																1
	13																									
	14										1	1	1													3
	15						1			1																2
	16							2			1						1									4
	17																1									1
	18										1	1	1	1	1											5
	19																									1
	20																									
	21																									
	22																									
	23																									1
	計	20	17	7	2	2	2	1	3	1	2	3	1	1	2	1	1	1	1	1						68

		選抜件数											
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
参加件数	1	5	18										23
	2	1	4	1									6
	3	1	1	1									3
	4		2	1									3
	5	1				1							2
	6						1	2					3
	7								1	1			2
	8				1	2				1			4
	9									1	1		2
	10									1		1	2
	計	8	25	3	2	3	3	3	2	1			50

注1) 平成24～26年度に技術提案評価型S型において段階的選抜方式を適用して契約した工事を対象。 注2) 特定JVの場合は、1つの個別企業として整理。
 注3) 一次選抜時の評価結果が確認でき、業者名が特定できている工事を対象に整理。

段階的選抜方式の1次審査と落札者について

落札者の1次審査順位

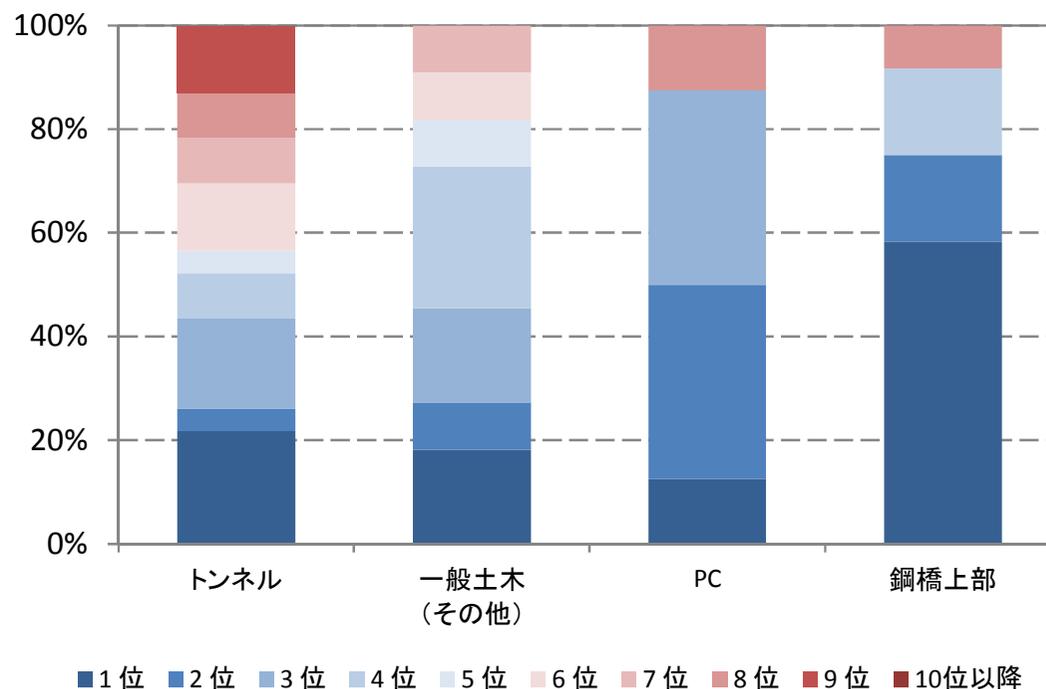
- 1次審査順位が5位以内の企業が落札する割合は74.1%である。
- 工種別では、PC・鋼橋上部工事において、1次審査順位5位以内の競争参加者が落札した割合が85%以上と高くなっている。

■工事内容別の一次審査順位が5位以内の者の落札件数・割合

	トンネル	一般土木 (その他)	PC	鋼橋上部	計
全体件数	23件	11件	8件	12件	54件
5位以内の落札件数 (割合)	13件 (56.5%)	9件 (81.8%)	7件 (87.5%)	11件 (91.7%)	40件 (74.1%)

■工事内容別の選抜予定者数

	トンネル	一般土木 (その他)	PC	鋼橋上部	計
選抜予定者 5者 (割合)	1件 (4.3%)	1件 (9.1%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	2件 (3.7%)
選抜予定者 7者 (割合)	0件 (0.0%)	1件 (9.1%)	0件 (0.0%)	1件 (8.3%)	2件 (3.7%)
選抜予定者 8者 (割合)	3件 (13.0%)	2件 (18.2%)	0件 (0.0%)	1件 (8.3%)	6件 (11.1%)
選抜予定者 10者 (割合)	19件 (82.6%)	7件 (63.6%)	8件 (100.0%)	10件 (83.3%)	44件 (81.5%)



注1) 平成24～26年度に技術提案評価型S型において段階的選抜方式を適用して契約した工事を対象。

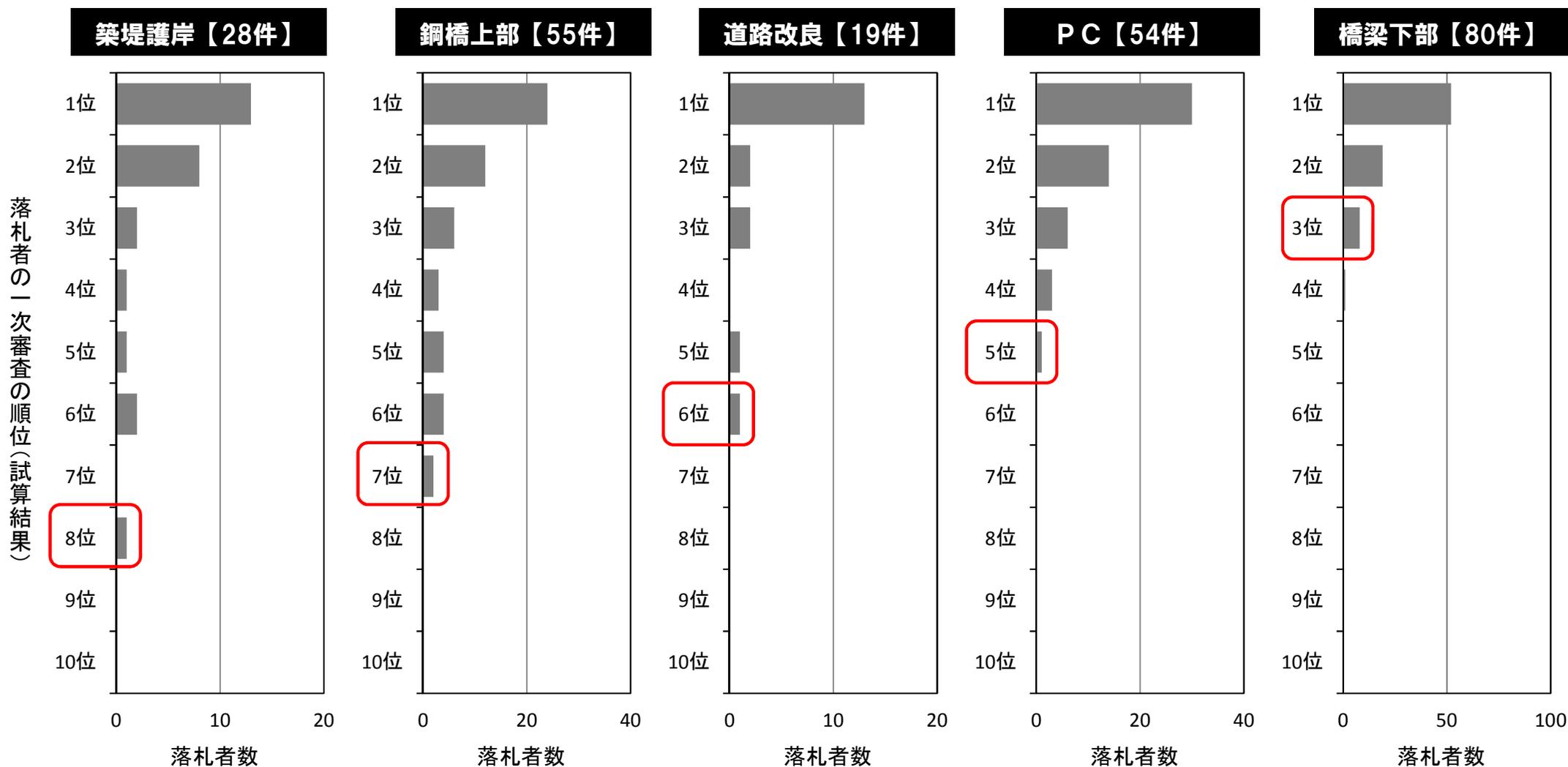
注2) 選抜予定者は予め入札説明書等において明示された選抜者数。

注3) 一次選抜時の評価結果が確認できている工事を対象に整理。

段階的選抜方式の1次審査と落札者について

落札者の1次審査順位のシミュレーション

- 企業及び技術者の実績等を評価している技術提案評価型S型の適用工事を対象に1次審査評価点を試算した結果、「PC」や「橋梁下部」等の工種では、落札者の1次審査順位が全て5位以内であった。



※1) 平成25・26年度に8地方整備局に技術提案評価型S型を適用した主要工事種別(一般土木・鋼橋上部・PC)工事のうち、以下の評価項目を設定している工事を対象に、これらの項目に係る評価点を算出し、一次審査の順位を試算

- ・企業の能力等(同種実績・工事成績・表彰)
- ・技術者の能力等(同種実績・工事成績・表彰)

段階的選抜方式の今後の方向性について

指摘されていた課題	現状
選定者の固定化	顕著な固定化傾向はみられない
手続期間が延びる	約1か月程度期間を要するケースが多い ※絞り込み者数を限定することによる審査期間の短縮等により手続き期間の改善に余地あり
不調・不落リスクが高まる	段階選抜による不調・不落事案は確認されておらず、また、そのリスクは少ないと思われる
参加者数によっては、段階選抜による負担軽減効果より1次審査の事務負担が相対的に大きくなる	一般土木WTO案件において平均約15者の参加があるなど、絞り込みによる事務負担の軽減効果は一定程度あるものと思われる

⇒指摘されていた課題において、現状、著しい支障等は見られない

段階的選抜方式の適用について、

- ・ 工事内容等により、不調不落のリスクが高いものや特に早期に契約が必要と考えられるものを除き、段階的選抜方式を基本とすることとしてはどうか。
- ・ 現状10者への絞り込みを行う場合が多いが、1次選抜時の評価と受注者の状況を踏まえ、工事内容等に応じて更に絞り込み者数を限定してもよいのではないか。